

あなたに暮らす、新しい風

TAKE
FREE

FUKUYA LIFESTYLE MAGAZINE



vol. 6

私のリノベ暮らし

「じぶんらしく暮らす」のためのリノベーション

今あるものを活かして、 じぶんらしく暮らす。

リビングの窓からみえるのは、のどかなみかん畑の景色。畑では、ご主人の両親が収穫作業をする姿がみえる。「じいじと、ばあばや〜！」窓際に並び、指をさす子供たち。和やかな情景に、時間の流れがゆっくりと感じられた。

家業であるみかん農家を継いだご主人の実家の離れにある、農業用倉庫をリノベーションした住まいで暮らす藤村さんご家族。リノベーション前、この建物は一階が農業用の鉄骨の倉庫。二階にはご主人が昔、子供部屋として使っていた木造の個室があり、テラスから母屋と繋がる特殊な建



Before

物だった。三男であるご主人が家業を継ぐことになり、結婚をして一人目の妊娠がわかったころ、この建物のリノベーションが話題にあがった。もともと一軒家を望んでいたふたりは、産休育休で余裕があるうちにと、すぐに計画をはじめたという。

「展示場を見学したときに、デザイン性に一目惚れしました。これだ！と思って」と、当時高知市介良にあったBATON HOUSE展示場をはじめて見学をしたときから、当社での建築を心に決めていたという奥様。数社で相見積もりを取ってみると、一番高かったけれど「後悔のないように、一番気に入る会社をえらんだら？」というご主人のやさしい後押しもあり、当社での建築が決まったのだとか。

奥様は、短大で建築・インテリアデザインを学んでいた過去も。計画中は、手書きの図面やスケッチでイメージを伝えるなど、設計士と一緒に試行錯誤をたのしんだという。倉庫の雰囲気を残した剥き出しの鉄骨や筋

交いと、ナチュラルな木の素材を組み合わせることで、リノベーションならではの、インダストリアルな雰囲気も生まれた。引っ越しから5年が経ったいまでは、アンティーク家具や、雑貨やグリーン、絵画などがセンス良くディスプレイされている。



また、間仕切りの少ない開放的な空間もこだわりのひとつ。一直線ならぶLDKの中心にあるスケルトンの階段からは明るい光が差し込んでいた。特に、階段上のフリースペースは、日当たりが良くみんなのお気に入りの場所。この日も、おもちゃを広げてのびのびと遊ぶ子どもたちの姿がみられた。



1. ガーデンデザイナーとして働いた経験のある奥様は、庭づくりもじぶんで。小さな苗木だったシンボルツリーも、5年で大きく成長した。2. ご主人の唯一の希望だった趣味部屋には、ギターや機材がずらり。壁には防音対策も施している。3. 今年はなり年だという「ふじ農園」のみかんは、とさのさとで購入ができる。

二階のテラスから母屋と繋がる造りはそのままに、分離型の二世帯住宅としたことも、ご家族にとってよい選択に。一般的な二世帯住宅とは違い、お隣さんのような気軽さが心地よいのだという。毎日顔を合わせるわけではないけれど、子供たちが自分で行き来をすることも。子育て中だからこそ、いざというときに隣にいてくれるということも、とても安心できる要素になっているという。「仕事場や実家とも隣り合う、コンパクトな暮らしが、じぶんたちには合っていた」と話すおふたり。欲を張らずあるものを上手に活かした住まいで、ご家族はそれぞれに趣味の時間をもち、じぶんたちらしい暮らしをたのしんでいた。



藤村様邸

家族構成：家族4人
竣工年：2018年11月
構造：鉄骨二階建て
延床面積：31.7坪



1.ご主人がフランス瓦をイメージして選んだというオレンジの屋根は、夕日があたるととても美しいのだとか。2.建築中に思い付きで「明るい方がいい」とアクリル板に変更を依頼したという、リビング入口の垂れ壁。3.12年前のリノベーションで新設したウッドデッキも、こまめなメンテナンスで綺麗に保たれている。

「小さいながらのいい暮らしを、見つける暮らしの工夫」

小嶋さんの住まいは、長年の主婦経験から生まれた「暮らしをたのしむための工夫」が、いたるところに。構造上のけられない柱によって生まれたデッドスペースも、余すことなく収納に活用。キッチンの背面収納も配管の都合で思わく奥行きが深くなったそうだが、おかげで作業スペースや収納量が十分に確保でき、機能的だという。そんな風に、リノベーションならではの苦悩も、小嶋さんらしい軽やかな発想で、暮らしやすく整えられている。

また、リノベーション時にイメージと違ったという窓枠の白いペンキ塗装は、ご主人と一緒にやすりで削ってアンティーク風に。フランス漆喰の壁とも良く馴染んでいる。いちからつくる新築も魅力的だが、限られた条件のなかで、工夫をしながら「ぶん好みに住みこなされた空間」には、時を重ねるリノベーションならではの魅力が詰まっていた。



interview

小嶋 昭子 さん

暮らしにあわせて、住まいを変える
セカンドライフリノベーション

「住まいに満足できていれば、しあわせ。」

春野町の豊かな自然に佇む一軒家で、夫と義母の3人で暮らす小嶋さん。当社で35年前に建築をした住まいを、LDKの内装全体を一新するリノベーションをしたのは、12年前のこと。

「リノベーションに加えて、小さなリフォームやDIYなどもたのしみながら、ライフステージに合わせて少しずつ暮らしを整えています。おかげでいつも新鮮な気持ちで、とにかく毎日がたのしいです」

多趣味な小嶋さんは、たのしいおしゃべりをしながら家中を案内してくれた。白と木目を基調としたシンプルな内装だからこそ、ディスプレイがよく映える。そして、ディスプレイされた雑貨のほとんどが手作りというから驚きだ。裂き織りの布でつくられたクッションやタペストリー、ワイヤーアートやモビールなど。プロ顔負けの手作り雑貨が、そこかしこを彩っていた。北欧の雰囲気を感じる彩りある空間は、そこにいるだけで華やかだしあわせな気持ちに。「小嶋さんの家に遊びにくると、いつも新しいものに出会えるからたのしい」と、訪れる友人たちに喜ばれているというのも頷ける。

「中古マンション+リノベ」で “今っぽく”おしゃれに暮らす

リノベーション事業部デザイナーの安藤は、ヴィンテージの古着や雑貨、車やバイクが好き、大のヴィンテージ好き。そんな安藤が設計を担当した買取再販物件「アーネスト能茶山」には、築年数の古いマンションを上手に活かして“今っぽく”暮らすヒントが沢山ありました。



1 こだわりの仕上げ材で 雰囲気をつくる

2 ライフスタイルに合った 間取りにかえる

3 本当に住みたい場所での暮らしを叶える

屋根や外壁、基礎工事がなく面積もコンパクトなため、工事費用が抑えられるマンションリノベーション。その分、造作家具や素材に費用をあてられます。アーネスト能茶山のリビングでは、こだわりのクラシックリブパネルが独特な雰囲気をつくりだしています。

鉄筋コンクリート造の建物は、柱や壁がないので、間取りの自由度が高い、自分たちのライフスタイルや好みに合わせて室内を自由にデザインし、生まれ変わらせることができます。マンションでは難しいとされる土間空間も、工夫次第で叶えられます。

新築と比べ総コストが抑えられるので、新築では手が出せないような立地の良い場所やエリアでも、今後の住まいの選択肢として選ぶことができます。アーネスト能茶山も人気の鴨部エリアにあり、便利でありながら木々の自然を感じられる好立地にあります。

人気の鴨部エリア

アーネスト能茶山 | 2,690万円(税込)にて販売中

[DATE] 専有面積(登記簿):71.48㎡(21.62坪)築年月:1994年2月

リノベデザイナー安藤のスタッフインタビュー 「FUKUYAの、いま」はこちら▶

高知駅周辺で ペットと暮らす夢を叶える

高知市北本町「エムディハイム」2,280万円(税込)で販売中

犬や猫など、飼主にとっては家族同様。買取再販物件「エムディハイム」はJR高知駅から徒歩5分の好立地。のびのび走り回れるオープンな間取りや、キャットウォークにもなる造作棚など、ペットとの暮らしを前提に設計された間取りやデザインで、安心してペットとの暮らしをはじめられます。「中古マンションリノベーションでペットとたのしく暮らしたい」という方は、ぜひ内覧にいらしてください。

[DATE] 専有面積(登記簿):17.17坪 築年月:1983年10月

フクヤ建設のリノベーション事業部「root renovation」の情報はここから

物件探し・資金計画・デザイン・施工・アフターサービスまでワンストップ・サービスを実現します。買取再販物件のお問合せ・内覧のご予約は080-9838-2980(水野)または、HPお問合せフォームよりご相談ください。

HP Instagram

Next Issue

12月29日 発行

vol.7

ストーブのある暮らし

本社2階社食ランチが食べられるカフェ CAFE FLAG @bistrocafe_flag

吾川郡いの町にあるカフェ・ドッグラン COCAGE Villa FUKUYA @cocagevillafukuya

[発行元] フクヤ建設株式会社 〒781-0015 高知市薊野西町3-35-29 ☎ 088-845-4618 ✉ fukuya@fukuya-h.co.jp 📍 @fukuya.kochi